



予算と事業から見る 令和

5年度つるがしまのまちづくり

問合先 財政課財政担当

令和5年度予算の概要

令和2年度からスタートした「第6次鶴ヶ島市総合計画」。令和5年度は4年目となり、ポストコロナに向けた大きな転換点となる年でもあります。市が目指す将来像「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」の実現を目指して、「鶴ヶ島に住んで良かった」と市民の皆さんに感じてもらえるよう、まちづくりに取り組みます。

令和5年度の一般会計の総額は226億1000万円。前年度と比較して6億2000万円の増額(2.8%の増率)となり、本年度の予算規模は、過去最大となりました。

「子どもにやさしいまちづくり」、「いつまでも健康でいられるまちづくり」、「多様な働き方が実現できるまちづくり」を柱に、「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」の実現に向けて、予算を計上しました。ここでは、令和5年度に行う主な事業について、紹介していきます。

しあわせ共感1
子育て

未来を担う子どもたちを育むために！ 出産・子育て・教育環境をさらに充実します

赤ちゃんの誕生を祝い品と応援金でお祝いします！

新「ふるさと鶴ヶ島誕生祝い事業」 (408万円)

新生児の誕生を祝福して出産祝い品を贈呈するとともに、第3子以降の誕生には、祝い品に加えて応援金を支給します。

民間スポーツクラブで水泳の授業を試行します！

新「小・中学校水泳指導方法検討事業」 (2374万円)

児童・生徒の水泳能力の向上を図るため、一部の学校において、民間スポーツクラブを活用した水泳指導を実施します。



しあわせ共感3
まちづくり

市民とともに！ 魅力あるまちづくりを進めます

「歩きたくなる くつろぎと にぎわいのまち」を目指し、鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくりが進行中です！
「鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想等策定事業」
(431万円)

令和4年度から取り組んでいる「鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくり」について、令和6年度からの事業化に向け、令和5年度は具体的な整備計画を決定します。

市民と一緒に考えた新しい公園の整備が始まります！

新「公園整備事業」 (3486万円)

土地区画整理事業により移管された公園予定地について、住民参加型のワークショップを開催して意見交換することで、地域住民の声を反映した魅力ある公園整備を推進します。令和5年度は若葉駅西口1号街区公園の整備工事と、一本松2号公園予定地のワークショップを実施します。



つるがしまの新たな取り組み～「脱炭素」に向けて～

問合せ先 生活環境課環境保全担当

市では、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするために次のような取組を進めていきます。

鶴ヶ島市ゼロカーボンシティ宣言



近年、地球温暖化が原因とされる気候変動により、甚大な被害をもたらす自然災害が地球規模で発生しています。国内においても、猛暑や集中豪雨、大型台風など、今までに経験したことのない異常気象が頻発し、私たちの生命や暮らしが脅かされる事態となっています。

このような地球規模の問題に対して、2021年のCOP26では、「世界平均気温の上昇を産業革命以前から1.5℃に抑える」という目標を掲げ、喫緊の課題として取り組んでいくことが再確認されました。

日本においても、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現を目指し、2030年における温室効果ガスを2013年度比で46%削減することとしています。

本市は、快適な居住空間が整備されている一方で、農地や屋敷林、水辺などの武蔵野の原風景が残されており、都市と自然が美しく調和した暮らしやすいまちです。先人から受け継いだこのようなふるさとの環境を守り、次世代に継承していくためには、私たち一人ひとりが地球環境に強い関心と危機感を持ち、脱炭素への取組を進める必要があります。

未来へ、そして子どもたちのために、市民、事業者、行政が一体となった「オール鶴ヶ島」で、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティを目指し、全力で取り組むことをここに宣言します。

令和5年(2023年)3月20日

鶴ヶ島市長

※ ゼロカーボンとは
二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を減らし、この排出量と森林保全などによる吸収量をプラスマイナスゼロにすること

ゼロカーボンシティの実現に向けて協定締結

3月9日、武州ガス(株)と東京ガス(株)の2事業者と包括連携協定の締結式を行いました。

公共施設への太陽光設備の導入、環境・エネルギー教育の実施などに向けて、専門的な知識や技術など事業者と協力いただくことで、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指します。

また、同日、包括連携協定に基づき、太陽光PPA※事業の共同検証に関する基本合意書の締結を行いました。

公共施設への太陽光PPA事業の実現に向け共同検証を進めていきます。



※ PPAとは
電力販売契約(Power Purchase Agreement)のこと。企業・自治体などが保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を企業・自治体が施設で使うことで、温室効果ガス排出の削減ができる

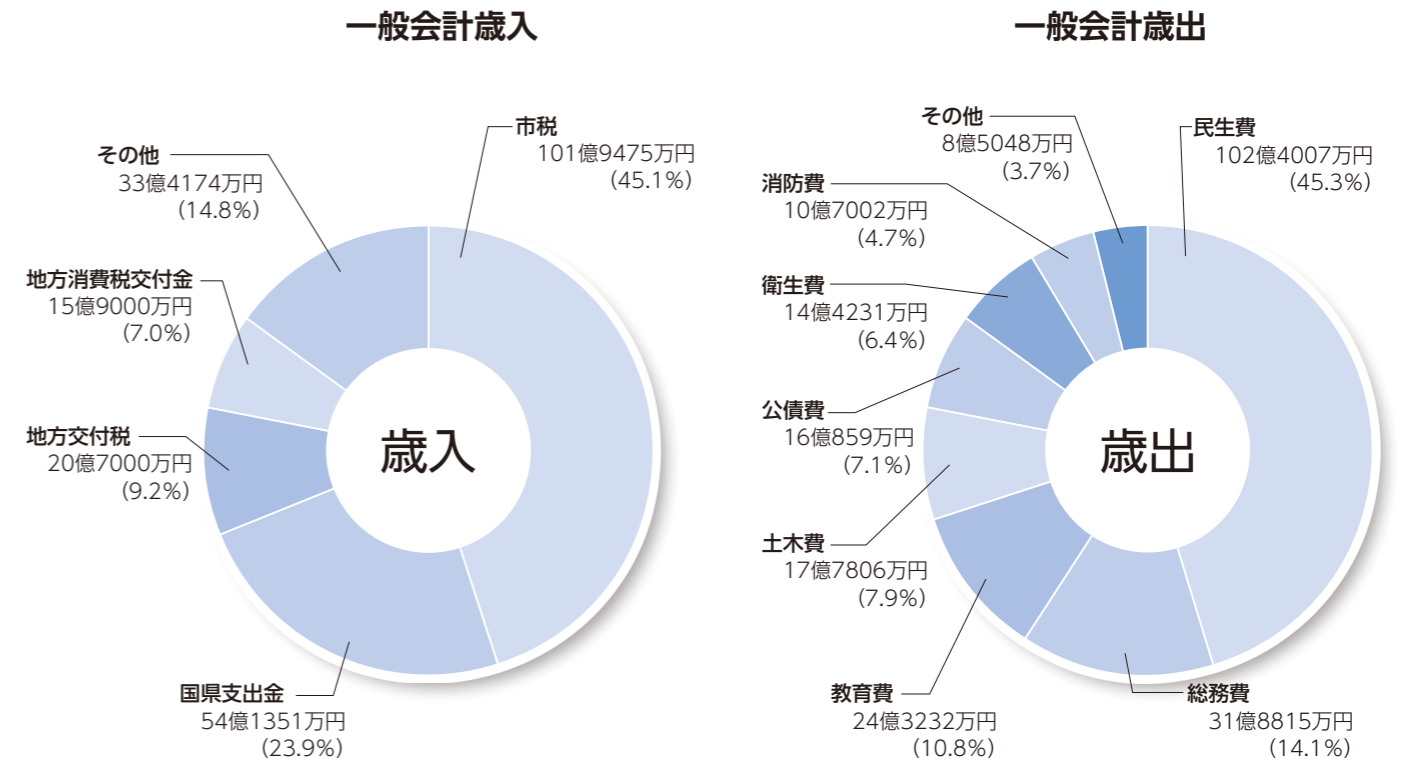
新ゼロカーボン推進事業(1521万円)

2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、市民・事業者・行政が一体となった取組を推進します。

【新たな取組内容】

- 緑のカーテンの普及(148万円)
緑のカーテンとして1000人でヘチマを栽培し、料理や、たわしづくりなどを楽しみながら、暑熱対策や節電・マイクロプラスチック削減などに取り組む「ヘチマプロジェクト」を実施します。
- 省エネルギー家電買換え等補助金(600万円)
ポータブル蓄電池の購入、省エネルギー効率の高い冷蔵庫やLED照明機器への買換えについて、補助制度を創設します。
- 公共施設太陽光設備等導入調査(680万円)
公共施設の太陽光発電設備などの導入に向けた調査を実施します。

予算を見える化 ～グラフで見る市のお金～



用語解説

市税	市民税、固定資産税などの税収入
国県支出金	特定の事業のために国・県から支出されるお金
地方交付税	市の財政状況に応じて国から交付されるお金
地方消費税交付金	県の地方消費税収入の中から市に対して交付されるお金

用語解説

民生費	子ども、高齢者、障害者などの福祉全般の事務・事業に使うお金
総務費	住民窓口、課税徴収、ICTなど市の総括的な事務に使うお金
教育費	学校運営の費用、生涯学習、スポーツなど教育全般の事務・事業に使うお金
土木費	道路、公園整備などに使うお金
公債費	市債を返済するために使うお金
衛生費	保健衛生、公害対策など安全で衛生的な生活のために使うお金
消防費	消防や災害対策に使うお金

全体の予算規模

会計名	令和5年度 予算額	令和4年度 予算額	比較増減		
			増減額	増減率	
一般会計	226億1000万円	219億9000万円	6億2000万円	2.8%	
特別会計	国民健康保険	66億6653万円	66億9105万円	△2452万円	△0.4%
	後期高齢者医療	11億196万円	10億1100万円	9096万円	9.0%
	介護保険	48億5889万円	45億9790万円	2億6098万円	5.7%
	一本松土地区画整理事業	8572万円	1億2560万円	△3988万円	△31.8%
	若葉駅西口土地区画整理事業	1億8199万円	3億1420万円	△1億3222万円	△42.1%
合計	128億9508万円	127億3976万円	1億5533万円	1.2%	
全会計合計	355億508万円	347億2976万円	7億7533万円	2.2%	

※ 特別会計とは、特定の歳入・歳出をもって、一般会計とは経理を別にする会計です
※ 各予算額は、表示単位未満で四捨五入をしているため、各項目の積み上げと合計が一致しない場合があります